

## 日本生産性本部 主席経営コンサルタント 中間 弘和



(なかも ひろかず)1960年生まれ。鹿児島県出身。九州大学経済学部経済工学科卒。卸小売業、製造業、建設業において経理・

人事・情報システム部門勤務を通して、資金管理及び財務管理の情報化、人事管理全般の運用業務、人事諸制度設計、人事管理の情報化、情報システム企画業務に従事。日本生産性本部「経営コンサルタント養成講座」を修了し、経営コンサルタントとして、広範な業種において、経営管理体制の整備・高度化指導、人事・労務全般に関する諸制度改革及び定着化・運用指導といった幅広いコンサルティング実績を持つ。民間企業や公的機関、医療福祉機関での経営幹部養成、管理職研修、改善研修など、人材育成の分野でも幅広く活躍。主な著書に『病院経営改善マニュアル』（共著、WAVE出版）がある。

### 抛り所の変遷

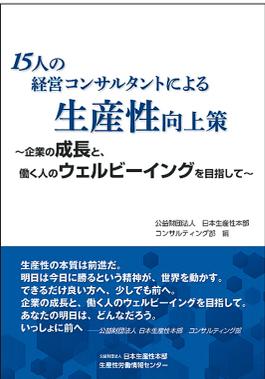
大学卒業後、卸小売業、製造業、建設業を約15年間経験後、日本生産性本部の経営コンサルタント養成講座を経て経営コンサルタント業務に約25年間従事。この仕事を25年間続けてこられたことから、概ねうまくやっていたのではな

いかと思う。30代までは理論に執心し、最先端の理論や欧米の理論を学びわが物顔で仕事をしていた記憶があるが、そのうち二つの問題にぶつかると。一つ目は自分の考えの喪失。二つ目は理論の具

体化の難しさで変化の速さ。このようなどから30代後半からは自分の考えを大事にするに至った。そして養成講座時代に自分の抛り所は「経営」であることに気づかされた。経営理論は理解していたつもりであったが、当事者意識が欠落し

## 基準は経営がよくなること

「経営」であることに気づかされた。経営理論は理解していたつもりであったが、当事者意識が欠落し「会社が良くなること」



### Chapter 9: 個と組織の融合による生産性向上と留意すべき陥穽

生産性向上を考え、実践していく上で留意すべき前提条件として、①生産性定義と必要性の明確化、②生産性定義のレベル感(国家、企業、業務)を混同しない、③生産性指標には限界がある、の3つをあげる。さらに、生産性向上に取り組むには、主管部署を決め、目指したい姿と基本方針、全体を俯瞰した戦略マップを構想する必要がある。その際、「経営的視点と働く側の視点」、「促進要因と阻害要因」の着眼点を忘れてはならない。